市内の３中学校は来年度から２校に統合

最後の文化祭へ行こう！

来年春の統合を前に、市内３つの中学校では最後の文化祭が行われます。伝統ある皆さんの母校また地域の中学校の締めくくりとなる文化祭です。ぜひ足を運んでご覧ください。
詳しくは各中学校へお問い合わせください。

第一中学校　雪陵祭

「証 ～刻み込もう 一中物語（せいとかい）～」

９月25日（金）～27日（日）

「一中の歩み」を振り返る企画も

「雪陵祭」として最後の文化祭となる今年、生徒みんなで絆を深め準備を進めている第一中学校。３年生が一中の歴史を調べまとめた「一中の歩み」発表、生徒の皆さんが合唱を披露する「音楽会」など、長期間準備をしてきた成果をご覧ください。また PTA の皆さんによる、写真やアルバム等の一中の歴史を振り返る展示も行われます。ぜひ、お誘いあわせのうえ、最後の雪陵祭にお出かけください。

■主なイベント
【25日（金）】
・開祭式（９時10分～）
・意見発表会（10時～）
・ステージ発表Ⅰ（10時55分～）
・閉校記念講演会（13時30分～、整理券のある方のみ入場可能）
【26日（土）】
・演劇部発表（９時10分～）
・ステージ発表Ⅱ（10時10分～）
・展示見学（11時20分～）
【27日（日）】
・一中の歩み発表（９時10分～）
・音楽会（９時45分～）

閉校記念音楽祭を開催

新たな学校での生活に向けて二中の魂を忘れないようにと取り組んでいる第二中学校の皆さん。星城祭に向けて、地域の方々を講師に生徒が作った作品の展示や、各クラスの展示などを予定しており準備が進められています。また最終日には、閉校記念式典と閉校記念音楽祭を市民会館で開催。これまで全校生徒みんなで大切に歌ってきた合唱「この地球のどこかで」ほか、クラス合唱なども行われます。ぜひお出かけください。

■主なイベント
【２日（金）】
・開祭式（８時50分～）
・意見発表会（９時30分～）
・ステージ発表（11時５分～）
・体育祭（13時５分～）
【３日（土）】
・吹奏楽ステージ（９時25分～）
・展示見学（９時55分～）
・ステージ発表（11時５分～）
・閉祭式（13時40分～）
【４日（日）※**会場は市民会館**】
・閉校記念式典（９時～）
・閉校記念音楽祭（10時25分～）

第二中学校　星城祭

『二中魂』動き出す一人ひとりの気持ち

10月２日（金）～４日（日）

第三中学校　輝峰祭

IMMORTAL BRIGHTNESS
～不滅の輝きは心の中に～

10月２日（金）～３日（土）

音楽祭には小学生も出演

３年選択美術の生徒を中心に、全校制作したステージバックの前で行われる最後の輝峰祭。音楽祭では、各クラス・全校生徒による合唱のほか、来年から城北中学校に入学する常盤・泉台・岡山・戸狩・東各小学校の６年生が演奏を披露。音楽祭を盛り上げてくれます。また毎年恒例の駅伝クラスマッチも開催。生徒たちがタスキをつないで学校を中心に地域を駆け抜けます。走る選手たちに大きな声援をお願いします。

■主なイベント
【２日（金）】
・開祭式（９時～）
・私たちの主張（10時５分～）
・展示見学（11時40分～）
・駅伝クラスマッチ（14時～）
【３日（土）】
・音楽祭（９時～）
・展示見学（12時～）
・閉祭式（13時15分～）

広島平和学習に参加した中学生

「平和の大切さを実感した夏」

市では、市内各中学校の代表の皆さんに、戦争の悲惨さや平和の大切さを学んでもらう広島平和記念事業を実施しています。今年度は８月５日・６日の２日間、中学生６人に広島平和記念式典への参加や、原爆資料館などを見学を通じ、平和の大切さを学んでもらいました。今回は参加した皆さんの感想文を抜粋し、ご紹介します。

第一中学校　高橋穂乃香

「他人の痛みを理解することができたら、自分の世界は一変する。」以前私がある本を読んだ時に印象に残ったこの言葉を、今回本当の意味で理解することができました。

広島へ行き、当時の戦争の写真や原爆投下の映像を見たことで、どんな悲惨なことが広島と長崎であったのか、本当に実感することができました。更に、平和記念式典での黙祷の時、「64 年前のこの瞬間に、この場所へ原爆が落とされた」と考えるとゾッとしました。

終戦から 64 年がたち、私達は戦争の体験談を聞くことができる最後の世代だといわれています。私達の世代や次の世代の人達までもが、もう二度とこんな悲劇を起こさないようにするためには、原爆の悲劇をしっかりと後世に伝えていかなければなりません。

私は広島平和記念学習に参加したことで、当時の人々の苦しみが本当にわかった気がします。今私ができることは、積極的に戦争について学び、発信していくことだと思います。これが、今の私にできる平和への一歩です。

第二中学校　真嶋　萌

中学校最後の夏、私は去年から行きたかった広島平和学習に参加させて頂きました。

1日目の平和記念資料館では、実物大の原爆の模型が一番印象に残りました。そのほか、黒こげになったお弁当箱や焼け焦げた学生服を見て、一瞬にして学生の生命、生活、そして人々の平和が失われた事に心が痛みました。

2日目には 64 回目の平和式典に参加し、広島市長、県知事、総理大臣の言葉を聞きました。また小学校６年生２人が述べた「平和の誓い」が私は印象に残りました。それは「闇から目をそむけることなく真実を見つめる」という言葉で、私の中で強く心に感じました。

今私たちにできることは、小さな一歩でしかありません。けれど、二度と世界から核兵器および戦争が起きないようにするために、一人ひとりが過去の歴史から目をそむけるのではなく、本当の歴史を見つめ学ぶべきだと思いました。私はこの経験を生かし、学習はもちろん、世の中のことに関心を持ち、平和について考え行動していきたいと思います。

第一中学校　山田唯楠

1日目、私達は広島平和記念資料館の見学をしました。資料館にはボロボロの服、真っ黒に焦げたお弁当箱、抜けた髪の毛や爪など、原爆にかかわる多くの資料がありました。私はそれを見てすごい衝撃を受け、原爆の恐ろしさを伝えていかなければならないと思いました。

次の日、8月6日には広島平和記念式典に参加しました。黙祷・平和の鐘では、亡くなった方への黙祷をし、これから私達がやるべきことを考え、亡くなった方へメッセージを送りました。もう一つ心に残ったのは、平和への誓いです。広島市の小学生代表２名が発表した平和への誓いはすごく力強く、原爆の怖さ、世界の国々で紛争や暴力で亡くなっている人がたくさんいること、これから私達ができることが発表され、私の心に強く残りました。この誓いにもあった私達ができること、それは原爆や戦争、世界の国々や歴史についての学習、けんかやいじめを見過ごさないこと、大好きな絵や音楽や色々な国の言葉で、世界の人達に伝える事が今の私達にもできることだと思います。

第三中学校　小出ゆかり

今まで私は、戦争は遠い昔に起きた事で私には関係のない事だと思っていました。しかし、この式典に参加し、私がいかに戦争について知識がなかったかがよくわかりました。

8月6日、私は 64 回目の原爆忌を広島で迎えました。そして8時 15 分、原爆が落とされたその時間に黙祷をささげると、何故かすごく鳥肌が立ちました。それから市長さんの「核兵器は廃絶されることにしか意味のないものであり、私達の世代がやらなければ次の世代への最低限の責任さえ果たしたことにならない」という平和宣言がとても心に残りました。

資料館では、あの時のまま止まっている時計や黒くこげた三輪車など、たくさんの遺品がありました。その日に時が止まってしまった人が何万人もいるかと思うととても心が痛みました。

今回の体験で私の戦争に対しての気持ちは大きく変わりました。自分にできることは何かを考え、そして、『私自身がこの事を忘れないこと」「この事をいろんな人に伝えること」が大切だと思いました。

第二中学校　山室明日香

私達が広島を訪れてから数週間が経ちました。しかし今でも、あの日感じた何ともいえない悲しみと希望は忘れられません。

1日目に行った原爆資料館では予想以上の衝撃を受けました。教科書や本には載っていない、または載せられないような資料や映像が多くあり、思わず目を背けたくなるような「事実」そして「真実」がありました。ホテルでも「明日、私は本当に真実を受け止められるのだろうか」と不安にもなりました。

2日目、平和記念公園での式典が始まると「平和への誓い」など胸に迫ってくる感情がわきあがっていくような場面がありました。「こんな暑い日にもっともっと熱い原爆で…」と思うと、１分間の黙祷がとても長いように思えました。そして千羽鶴を捧げ、すぐ近くで見た原爆ドームは、あまりにも残酷でした。

この学習で私は「平和の尊さ」を改めて考えることができました。私も将来は世界に生きる人間として、核廃絶のために一歩、踏み出そうと思います。

第三中学校　宮川美紅

私の中で戦争は「怖い」といいうイメージだけでしたが、今回の２日間で、はるかに大きなものを学べた気がします。

平和資料館の８時 15 分 26 秒で止まった時計は、その時間に多くの人々がなくなった事実に、言葉では表現しきれない複雑な気持ちになりました。また、原爆前後の広島の模型もあり、どこにでもある普通の平和な町が、原子爆弾のすさまじい威力でまるで火の海のようでした。私達の故郷、飯山市に落とされていたらと思うと、怖くて鳥肌が立ちました。

次に原爆ドームを見学しました。当時は「壊してほしい」という声もあった中、世界から原爆をなくし、二度とこのような事がないようにという願いからこの原爆ドームが残されたということで、私も本当に残されてよかったと感じました。

原子爆弾という存在は決して許されません。それを未来に伝えられるのは、世界唯一の被爆国である日本、そしてこの原爆ドームだと思います。